

単元名 傷害の防止【中2】

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすることができる。
 (2) 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを他者に伝えることができる。
 (3) 傷害の防止についての学習に主体的に取り組むことができる。

標準的な展開例

13300130_001

【準備等】包帯、三角巾、マネキン、AED（トレーニングキット）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 傷害の発生要因と防止について考える。 ★傷害の発生要因と防止について考えよう。 ○中学生の傷害の特徴について考える。</p> <p>○傷害の起こり方について考える。 ・人的要因 ・環境要因</p> <p>○傷害の防止について考える。</p> <p>○傷害の起こり方と防止についてまとめる。</p> <p>2 交通事故の要因と傷害の防止について考える。 ★交通事故の要因と傷害の防止について考えよう。 ○交通事故の要因について考える。 ・人的要因 ・環境要因</p> <p>○安全な行動と危険予測について考える。</p> <p>○交通環境の整備について考える。</p> <p>3 犯罪被害の防止について考える。 ★犯罪被害の防止について考えよう。 ○中学生に起こる犯罪被害について考える。</p> <p>○犯罪被害の人的要因とその対策について考える。 ・人的要因 ・環境要因</p> <p>○犯罪被害の環境要因とその対策について考える。</p> <p>4 自然災害による傷害の防止について考える。 ★自然災害による傷害の防止について考えよう。 ○自然災害による危険について考える。 ・一次災害 ・二次災害</p> <p>○自然災害への備えについて考える。</p>	<p>・今までにどのような場面でけがを経験したのかを振り返らせ、中学生のけがの種類やその原因について考えさせる。 【評】中学生の傷害の発生要因を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・人的要因には、人間の心身の状態や行動の仕方があることについて理解させる。 ・環境要因には、道路や場所、施設・設備の状態や気象条件、法律・規則などがあることについて理解させる。 ・傷害を防止するには、危険を予測することが大切であることを理解させる。また、人的要因と環境要因に適した対策を取ることが必要であることを押さえる。 ・傷害の起こり方やその防止には、人的要因と環境要因が関わり合っていることを理解させる。</p> <p>・傷害の発生要因で学んだことを生かして考えさせる。 【評】交通事故の要因について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・交通事故を防ぐためには、危険を予測し、人的要因と環境要因それぞれへの対応が重要であることを理解させる。 ・自転車や自動車の特性についても触れる。 ・交通事故を防ぐ道路環境への対策には、道路標識の設置や交通規則の実施など、交通環境の改善が必要であることを理解させる。</p> <p>・中学生においては、通学路を含む地域社会で犯罪に巻き込まれて傷害を受けることがあることを押さえる。 ・人的要因として、危険な行動、不安定な心身の状態などがあることを押さえる。 ・インターネットを利用した犯罪についても触れる。 犯罪被害を防止するためには、危険を予測し判断して、犯罪を避ける行動をとる必要があることを理解させる。 ・安全を守るための地域の取組についても触れる。 【評】犯罪被害の要因と対策について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・地震が起きたときなどを想起させ、考えさせる。 ・二次災害は、津波や土砂崩れ、地割れ、火災などがあることを理解させる。 ・自然災害による傷害を防止するためには、地域のハザードマップなどを確認し、災害が起こったときにどのような危険があるのかを把握しておく必要があることを理解させる。 ・災害発生時の対処の仕方を身に付けるための避難訓練の実施や非常持ち出し袋の準備など日頃からの備えの大切さを理解させる。</p>

<p>○ 自然災害が発生した場合の行動について考える。</p> <p>○ 自然災害による傷害の防止についてまとめる。</p> <p>5 応急手当の基本について知る。 ★ 傷害が発生したときの応急手当の手順や方法について理解しよう。 ○ 応急手当の意義と目的について考える。</p> <p>○ 応急手当の手順について考える。</p> <p>○ 傷害が発生したときの応急手当についてまとめる。</p> <p>6～7 心肺蘇生法について知る。 ★ 心肺蘇生の正しい方法を身に付けよう。 ○ 人が倒れているときの生命を救う手当について知る。</p> <p>○ 心肺蘇生法の手順を実習をする。</p> <p>8 出血があるときの応急手当の基本について知る。 ★ 出血があるときの応急手当の方法を身に付けよう。 ○ 傷の手当の基本について確認する。</p> <p>○ 包帯を使った応急手当の実習をする。</p> <p>○ 出血が多いときの止血法について知る。</p> <p>9 外傷の応急手当について知る。 ★ 外傷の正しい応急手当の方法を身に付けよう。 ○ 打撲傷、脱臼、捻挫、骨折について理解する。</p> <p>○ 外傷の応急手当の基本について実習をする。</p>	<p>・ 地震についての情報は、緊急地震速報で知ることができることを押さえる。</p> <p>・ 周りの状況を的確に判断し、安全に行動することの大切さを理解させる。 【評】 自然災害による傷害の防止についてまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 医師の診療を受けるまでの一時的な手当で、治療ではないことを理解させる。</p> <p>・ 応急手当の目的は、生命の救助、けがや病気の悪化防止、傷害者の苦痛を和らげ、励ますことであることを理解させる。</p> <p>・ 傷害が発生したときに、どのように行動するとよいのか、グループごとに想定させ考えさせる。</p> <p>・ 校内のAEDの設置場所やAEDの仕組みについて押さえる。 【評】 応急手当の手順について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 心肺蘇生は心肺が停止してる人に行うことを理解させる。</p> <p>・ 心肺蘇生は心肺が停止してから1秒でも早く行うことが重要であることを理解させる。</p> <p>・ 傷病者を発見した場合は、まず周囲の状況が安全かどうか確認することが大切であることを理解させる。</p> <p>・ 感染防止器具がない場合には、胸骨圧迫だけ行ってもよいことを伝える。 【評】 心肺蘇生法の実習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 切り傷、擦り傷、刺し傷の応急手当について確認する。</p> <p>・ 包帯の巻き方について確認する。</p> <p>・ 出血があるときの手当には、血液からの感染防止のため、他の人の血液に触れないようにビニル手袋などを使用して手当を行うとよいことを確認する。 【評】 包帯を使った応急手当の実習を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・ 直接圧迫止血法について理解させる。</p> <p>・ 打撲傷、脱臼、捻挫、骨折の状態について理解させる。</p> <p>・ 外傷の状態によっては、すぐに救急車を呼び医療機関で治療を受ける必要があることを押さえる。</p> <p>・ 身近なものを使って、患部を固定できることについても説明する。</p> <p>・ 打撲傷、脱臼、捻挫などの応急手当の方法についても確認する。</p> <p>・ 外傷のある応急手当はR I C Eが基本であることを知らせる。</p> <p>・ R I C E法について理解させる。 【評】 外傷の応急手当について実習する活動を通して、「知識・技能」を評価する。 【評】 単元全体を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
---	--

【 備 考 】

本単元では、傷害の発生にはさまざまな要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにする。

心肺蘇生については、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野との関連を図る。また、学校の実態に応じて消防署などの関係機関と連携して行うとよい。